

今井大達さん（博士前期課程 1 年）がベストプレゼンテーション賞を受賞しました

9 月 16 日から 9 月 18 日に、和歌山県南紀白浜で行われた RNA フロンティアミーティング 2014 において、大学院自然科学研究科・生命-食料科学専攻・基礎生命科学コース博士前期課程 1 年の今井大達さん（指導教員：内海利男 教授）の研究発表がベストプレゼンテーション賞（MBL 賞）として表彰されました。

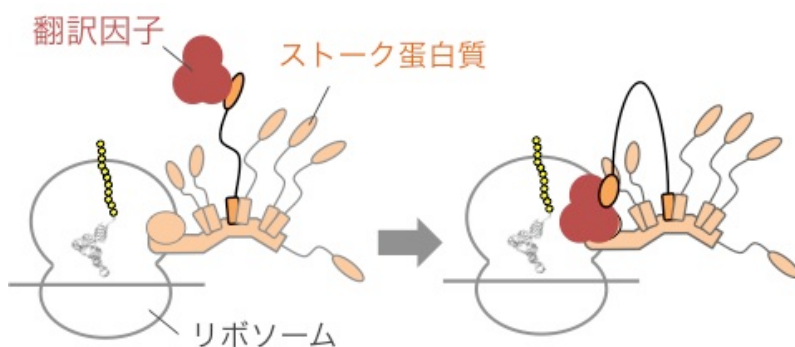
水を除けば、私たちのカラダの半分は蛋白質から作られています。蛋白質は様々な生命現象を調節する生体分子ですが、全ての蛋白質は細胞内に存在するリボソームにより合成されます。本研究は、リボソームが蛋白質を効率的に合成する分子メカニズムの一端を明らかとしたものです。

本研究では、リボソーム上に存在するストック蛋白質と呼ばれる構造体が、蛋白質を合成するために必要な材料や他の分子（翻訳因子）を捕獲し、リボソームへ運搬することの強い証拠を提示しました（図を参照）。

発表者：今井大達（新潟大学大学院自然科学研究科・博士前期課程 1 年）

演題名：リボソームストック蛋白質は翻訳因子を 23S rRNA の sarcin/ricin loop へ誘導する

リンク：<http://www.phar.kindai.ac.jp/genome/RNAFrontierMeeting/>



左図. ストック蛋白質による翻訳因子のリボソームへの輸送モデル

右図. 賞状